

DIR

第1回 同志社ローム記念館大賞各賞

[同志社ローム記念館大賞]

e-Learning教材の開発と インフォテーブルの基礎研究

【誘致プロジェクト】

参加企業：萬世電機株式会社

責任者：和氣早苗（同志社女子大学学芸学部情報メディア学科助教授）

学生メンバー：

元永成美、宮本亜矢子、中澤留香、猪飼曜

（同志社女子大学学芸学部）

加藤未希（同志社大学工学部）

田中侑（同志社大学経済学部）

[同志社ローム記念館優秀賞]

こんなん欲しかってんキャンパスツール

【誘致プロジェクト】

参加企業：ファイルメーカー株式会社

責任者：関口英里（同志社女子大学学芸学部情報メディア学科助教授）

学生メンバー：

寛司絢子、井ノ倉沙織、山上有利香、三浦慶子、二山晃子

（同志社女子大学学芸学部）

横田徹（同志社大学大学院神学研究所博士課程後期）

同志社大学レスキューロボットプロジェクト

【公募プロジェクト】

責任者：橋本雅文（同志社大学工学部情報システムデザイン学科教授）

プロジェクトリーダー：村田真依子（同志社大学工学部知識工学科）

学生メンバー：

藤村浩司、吉川啓祐、北川晋也、西井吉伸、野末恵亮、森川貴也、

伊藤孝一郎、堀内智之、益田泰孝、工藤淳矢、木嶋花江、小林優、

新野毅、寺部亮佑、中村太智、竹田滋紀（同志社大学工学部）

[同志社ローム記念館特別賞]

MS-CoLabo

【誘致プロジェクト】

参加企業：マイクロソフト株式会社

デジット株式会社

責任者：柳田益造（同志社大学工学部知識工学科教授）

学生メンバー：

宮本綾子（同志社大学文学部）

藤岡貴史、三木紀佳、福田泰助、美内庸介（同志社大学工学部）

奥沙苗（同志社大学商学部）

大田有希子（同志社大学法学部）

橋本怜奈（同志社大学経済学部）



《選考基準》

同志社ローム記念館大賞を始めとする各賞については、「社会性」・「成果物」・「人材育成」の3つの観点から具体的な視点として評価が行われた。

社会性 人とのつながり、社会改革のインパクト、社会における価値、社会貢献度等を評価。

成果物 目標達成度、新規性、独創性、実用可能性、審美性、完成度等を評価。

人材育成 スキルの向上、モチベーション、計画性、チームワーク、企画力、実行力、プロデュース力等を評価。

全プロジェクト同条件にて選考を行うため、選考の基本材料はこれまでの活動と中間報告を踏まえた最終成果報告会のプレゼンテーションとした。





第1回 同志社ローム記念館

大賞

誘致プロジェクト

e-Learning 教材の開発と インフォテーブルの基礎研究

参加企業：萬世電機株式会社



プロジェクトの目的

最近注目されているインターネットなどのIT技術を利用した新しい学習形態であるe-Learning。その普及に向けて今後、重要な鍵となる、魅力的な教材コンテンツを研究開発する。



STAFF

〈プロジェクト責任者〉

和氣早苗 (同志社女子大学学芸学部情報メディア学科助教授)

〈学生メンバー〉

元永成美、宮本亜矢子、中澤智香、猪飼麗

(同志社女子大学学芸学部)

加藤未希 (同志社大学工学部)

田中侑 (同志社大学経済学部)

●選考理由

本プロジェクトは、萬世電機株式会社の協力を得て、インターネットなどのIT技術を利用した新しい学習形態であるe-Learningの普及に向けて魅力的な教材コンテンツの研究開発を行うことを目的に活動が開始されました。このプロジェクトでは、まず「OSの基礎」「京町家」コンテンツの製作を通してメンバーのウォーミングアップが図られた後、産官学連携プロジェクトにより「新選組の素顔～幕末の閃光のごとく輝いた隊士～」(産＝萬世電機、官＝京都府、学＝同志社)「これだけはおさえない源氏物語のツボ～謎の『宇治十帖』に迫る～」(産＝萬世電機、官＝宇治市・城陽市・久御山町、学＝同志社)という2つの生涯学習講座コンテンツが製作され、効果検証実験も実施されました。学生メンバーが主体となって産官学の資源をうまく利用しながら社会的価値のある作品を制作しており、その一連のプロセスは同志社ローム記念館プロジェクトのモデルになるものとして評価されます。このプロジェクトへの参加を通して学生メンバー諸君のプロデュース能力が向上したものとわれます。

以上の理由から、本プロジェクトに2004年度同志社ローム記念館大賞を授与いたします。

DR
大賞

- 対象プロジェクトの中から、初期の目的を達成し、特にすばらしい成果を上げたプロジェクトに対し、大賞を授与します。
- 同志社ローム記念館グランドフロアに、大賞プロジェクトを講えるプレートを設置します。歴代の大賞プロジェクトの名が刻まれていくこととなります。

- 大賞プロジェクトには、トロフィーと参加メンバー全員に賞状が授与され、次年度もプロジェクトの実施が決定しているプロジェクトに対しては、活動資金20万円が副賞として授与されます。



第1回 同志社ローム記念館

優秀賞

誘致プロジェクト

こなんん欲しかったん キャンパスツール

参加企業：ファイルメーカー株式会社

プロジェクトの目的

大学生の充実したキャンパスライフをアシストするツールとして、データベースファイルを作成し、完成したツールは、広く公開していく。



STAFF

《プロジェクト責任者》

関口英里 (同志社女子大学学芸学部情報メディア学科助教授)

《学生メンバー》

寛司絢子、井ノ倉沙織、山上有利香、三浦慶子、二山晃子

(同志社女子大学学芸学部)

横田徹 (同志社大学大学院神学研究所博士課程後期)

●選考理由

本プロジェクトは、ファイルメーカー株式会社の協力を得て、充実したキャンパスライフをアシストするツールとしての各種データベースファイルを作成することを目的に活動が開始されました。本プロジェクトは高いレベルで課題に取り組み、学生のためのツールの開発と配布、さらにテスト版の完成へと着実に事業を進めてきたことが評価されます。本プロジェクトに参加したメンバーのモチベーションは1年間を通して高く維持され、プロジェクトメンバーの成長には著しいものがみられました。成果物である住所Tool、資料Tool、授業Toolでは、ファイルメーカーのデータベースの利点を十分に活かしながら、学生であるが故の工夫が様々になされています。以上の理由から、本プロジェクトに2004年度同志社ローム記念館優秀賞を授与いたします。



DIR
優秀賞

● 対象プロジェクトの中から、初期の目的を達成し、特に優秀な成果を上げたプロジェクトに対し、優秀賞を授与します。

● 優秀賞プロジェクトには、トロフィーと参加メンバー全員に賞状が授与され、次年度もプロジェクトの実施が決定しているプロジェクトに対しては、活動資金10万円が副賞として授与されます。



第1回 同志社ローム記念館

優秀賞

公募プロジェクト 同志社大学レスキューロボット プロジェクト(D.U.R.P)

プロジェクトの目的

阪神大震災を経験した関西の大学で積極的に研究・作成しなくてはいけないテーマと捉え、学生主体によるレスキューロボット製作に取り組んでいく。製作したロボットはレスキューロボットコンテストに出場させる。



STAFF

〈プロジェクト責任者〉

橋本雅文(同志社大学工学部情報システムデザイン学科教授)

〈学生メンバー〉

村田真依子、藤村浩司、吉川啓祐、北川晋也、西井吉伸、野末恵亮、森川貴也、伊藤孝一郎、堀内智之、益田泰孝、工藤淳矢、木嶋花江、小林優、新野毅、寺部亮佑、中村太智、竹田滋紀(同志社大学工学部)



●選考理由

本プロジェクトは災害時の救援ロボットを開発することを課題として、学生自身の力によって企画され、活動が開始されました。ロボット製作に対する関心と技術の向上をはかるために、技術者養成と実際のロボット製作の計画を有機的に関連づけ、次代のロボット製作者を生み出すきわめて有力な組織として活動をつづけ、さらにその成果として、レスキューロボットコンテストに参加を許可された複数の機体とアイデアを示してくれた点は大きな評価が与えられるものと考えます。また中間報告以降では、製作者側の視点だけでなく、被災者の視点も取り入れようと、ユーザーと技術発展は不可分の関係であり、レスキューロボットに対するアンケートをおこなった点が大きく評価されます。さらに同志社ローム記念館におけるみなさんの日頃の活動は、同志社ローム記念館を活性化する上でとても貢献するものになりました。今後もこういった活動を続け、ロボット製作を通じて、自立的で社会性をもった多くの学生を生み出す原動力になってもらうことを期待します。以上の理由から、本プロジェクトに2004年度同志社ローム記念館優秀賞を授与いたします。



第1回 同志社ローム記念館

特別賞

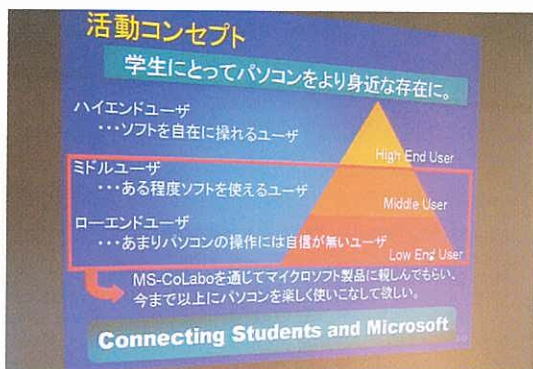
誘致プロジェクト

MS-CoLabo

参加企業：マイクロソフト株式会社
デジット株式会社

プロジェクトの目的

マイクロソフト製品を全国の大学関係者がより使いやすくするための企画・開発を行う。さらに学内のヘルプデスク運営、イベントの運営を企画する。



STAFF

〈プロジェクト責任者〉

柳田益造 (同志社大学工学部知識工学科教授)

〈学生メンバー〉

宮本綾子 (同志社大学文学部)

藤岡貴史、三木紀佳、福田泰助、美内庸介 (同志社大学工学部)

奥沙苗 (同志社大学商学部)

大田有希子 (同志社大学法学部)

橋本怜奈 (同志社大学経済学部)

●選考理由

本プロジェクトはマイクロソフト製品が全国の大学関係者にとってより使いやすく進化するための企画・開発を行うことを目的に、マイクロソフトの協力を得て活動が開始されました。マイクロソフト社の製品と学生をつなぐこのプロジェクトの目的は、産学協同のプロジェクトとしてふさわしいものであります。メンバー諸君が活動を楽しみ、またマイクロソフト社と共に活動を展開する機会を得たことで、さまざまな体験や学習ができたことと思います。今後は学生生活の各場面で現在製作中のテンプレートを使った実証試験を行い、実用化に向けて進行していただきたいと思っています。単に一製品のテンプレートや解説資料を作成するに留まらず、学生の生活シーンの中でのダイナミックな活用を提案するつもりで、今後の活動を続けていただきたいと思っています。以上の理由から、本プロジェクトに2004年度同志社ローム記念館特別賞を授与いたします。



DR
特別賞

対象プロジェクトの中から、社会性、人材育成などの観点から、優秀な成果を上げたプロジェクトに賞を与える場合があります。

大賞、優秀賞とその他の賞とのダブル受賞の可能性もあります。

賞の名称については、選考時に決定します。

それぞれの賞について、プロジェクトメンバー全員に賞状を授与します。副賞もあります。